

教育目標	
心豊かにたくましく よく遊び 未来へつながる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 今年度は、概ね保育行事やさまざまな事業は内容を精選しながら行うことができた。しかし、コロナ時の影響か、毎日全員が登園することが難しく、各クラス揃って保育ができる日が少なかった。落ち着いた教育環境の中、穏やかに育っている一方で課題も見えてきている。個々によく遊び込む姿はあるのだが、遊びや生活の中で継続して力を発揮し、満足感や達成感を味わうことが難しい姿もあった。今ある状況に落ち着き、自分でめあてをもつという意欲が少なかったが、年度末が近づき、ようやく成長が感じられるようになってきた。幼児期の失敗や成功経験が、将来、他者と共に力を合わせ、未来をつくりだしていく土台となっていくことを、家庭に伝え、温かく見守ってもらう必要があった。今年度の成果や課題を振り返り、次年度は、一人一人の心身の状態を見直し、より主体的、対話的に遊びを深め、学ぼうとする気持ちを育てていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 幼稚園での子どもの様子や保育内容について、以前は共有しやすい状況にあったかもしれない。その中で子育ての不安や悩みを互いに語り合い、安心して子育てをすることができていた。就労する人も増えてきているが、保護者同士のつながりを大切にこれからも保育を進めてほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月20日	保護者、学校運営協議会（サンサンキッズ）
最終評価	3月6日	保護者、学校運営協議会（サンサンキッズ）

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組 ・「安心・安定」した園生活を基盤とし一人一人が夢中になって遊び込む中で、自己発揮や協同性を育むための環境構成、学年や個々の発達に応じた教師の援助を考え、幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の作成・見直しを図る。 ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方との関わりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践をする。 ・幼稚園兄弟を意図的につくり、年間を通して異年齢児が関わる機会を設定し、憧れや思いやりの気持ちが育つようにする。 ・未就園児とのつながりが持てる機会を設定する。 ・若年教員の良さを生かした保育の質向上を願い、幼児教育の基礎基本を学び合う。自然との関わり、絵本やリズム遊び、運動的な遊び、造形活動など体験を通して行う保育の見直しを通し、幼児が主体的に自己を発揮する環境や教師の援助を見直す。
（取組結果を検証する）各種指標 ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述

・アンケート項目

- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
- ② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」
- ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」
- ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
- ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」
- ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」
- ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」
- ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」

中間評価

各種指標結果

① 「幼稚園を楽しいと感じている」	A 75 %・B 24 %
② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」	A 75 %・B 24 %
③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」	A 67 %・B 29 %
④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」	A 76 %・B 24 %
⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」	A 55 %・B 38 %
⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」	A 49 %・B 36 %
⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」	A 80 %・B 18 %
⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」	A 53 %・B 43 %

自己評価

分析（成果と課題）

- ・指名研修を経験した若手教員が研修の成果を生かし、園内研究における実践事例の検討や研究保育を通しての保育の見直し、環境構成等、積極的に行うようになっている。また、昨年度に引き続き、育支援センターの巡回指導を受け、子どもの育ちや課題を共有し、子どもたちの課題に全教職員で関わっている。言葉や表情、しぐさなどから子どもの気持ちを読み取ろうとする幼児理解につながっている。保育をより深く充実していけるようにと考える。
- ・自然物との関わりでは、年長児が種からの栽培物を増やし、花の苗屋さんを開き、地域や保護者に関わってもらう取組をした。収穫や開花に触れ、自然物への興味関心が育ったと考えているが、保護者全体に理解してもらうまでに至らなかった。
- ・⑥については、常に評価が低い項目である。個人差はあるが、基本的な生活習慣が子どもたちに自信と自立心を育み、自己発揮できる素地をつくることを、保護者へ意識づけし、今後も家庭と連携していきたい。
- ・⑧に関しては、発信の方法を新たに考え、理解していただけるように努力したい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・子どもが心を動かし、試したり挑戦したりするためには、保育環境の工夫、教職員の共通理解の他に、家庭の影響も大きい。コロナ禍の影響か、休みがちになる家庭もあるので、基本的な生活習慣の自立や人との関わりが心の安定や意欲、自信につながることを踏まえ、家庭との連携を深めながら、保育の質向上をめざしていきたい。指導案・週案の反省・評価を基に、今後も子どもたちの遊びや生活が充実できるように環境構成など充実していきたいと考えている。
- ・今年は子どもが主体的に遊び、充実感や達成感を味わえる保育をめざしている。互いの保育を見直し、十分に検討し合っている。若手教員の相談にも教員みんなで話し合い、意見交換することができている。今後も互いの関係性を大事にしたい。
- ・日々の連絡事項については、降園時刻が預かり保育の影響で抜けてしまうことがあるので、今後連絡アプリを有効に活用していき、丁寧な対応をしていきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
- ・アンケート項目
- ② 「幼稚園を楽しいと感じている」
- ② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」
- ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」
- ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
- ⑤ 「栽培・虫や生き物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」
- ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」

	⑦「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしてしている」 ⑧「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・新年度の入園児もたくさんきてほしいと思う。地域もできるだけ協力していきたい。 ・他の保育園の運動会も見だが、いろいろな方法を取られていた。 ・保護者意見も受け入れながら、最終的に良い評価となればよいのではないかな。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述 ・アンケート項目 <table> <tr> <td>① 「幼稚園を楽しいと感じている」</td><td>A 76 %・B 23 %</td></tr> <tr> <td>② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」</td><td>A 74 %・B 26 %</td></tr> <tr> <td>③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」</td><td>A 72 %・B 26 %</td></tr> <tr> <td>④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」</td><td>A 76 %・B 24 %</td></tr> <tr> <td>⑤ 「栽培・虫や生き物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」</td><td>A 53 %・B 38 %</td></tr> <tr> <td>⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」</td><td>A 47 %・B 43 %</td></tr> <tr> <td>⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしてしている」</td><td>A 76 %・B 23 %</td></tr> <tr> <td>⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」</td><td>A 43 %・B 51 %</td></tr> </table>	① 「幼稚園を楽しいと感じている」	A 76 %・B 23 %	② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」	A 74 %・B 26 %	③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」	A 72 %・B 26 %	④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」	A 76 %・B 24 %	⑤ 「栽培・虫や生き物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」	A 53 %・B 38 %	⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」	A 47 %・B 43 %	⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしてしている」	A 76 %・B 23 %	⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」	A 43 %・B 51 %
① 「幼稚園を楽しいと感じている」	A 76 %・B 23 %																
② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」	A 74 %・B 26 %																
③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」	A 72 %・B 26 %																
④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」	A 76 %・B 24 %																
⑤ 「栽培・虫や生き物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」	A 53 %・B 38 %																
⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」	A 47 %・B 43 %																
⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしてしている」	A 76 %・B 23 %																
⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」	A 43 %・B 51 %																
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・感染症が5類になり、子どもたちの遊びや生活をほぼ保障し、主体的に遊ぶ子どもをめざして保育を進めてきた。概ね幼稚園の保育に理解をいただける評価ではあったが、④栽培物や飼育物への興味⑦絵本への興味関心といった項目では課題を感じた。⑧子どもの遊びや生活の様子については、家庭との連携のあり方を見直す機会となり、次年度への大きな課題となった。インスタなども始めたが、業務に余裕がなく、更新が少なかった。個別の対応が多く、学級運営面では課題を残す結果となったが、今後状況を見ながら、保護者とのつながりを工夫できるように努力していきたい。保護者や地域の方々の信頼があってこそ、質の高い保育はできることをより自覚し、幼児教育の重要性について、保護者や小学校、地域へと発信することを教職員一同で意識していきたい。 分析を踏まえた取組の改善 ・主体的に遊ぶ子どもの姿を大切に環境構成することで、自分の思いを表したり、人との関わりを楽しんだりできる子どもは増えた。しかし、一方で幼児の発達段階で起こる友達への言葉かけや態度などで教師の援助が不十分な点が見られた。子どもたちに相手の思いを伝えたり、また相手の思いに気づいたりできる思いやりの気持ちを育てるためには、周囲の大人が意識を高め、保護者へ子どもの様子を伝え、家庭と共に考え、連携していくことが重要であることを改めて認識した。相手の思いや気持ちを押し測ろうとすることが、学びに向かう力や人間性につながることを、今後も保護者へ具体的に啓発するとともに、保育の中でも丁寧に見取り、指導していきたい。																
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 教職員は園児や保護者との関わりが大切であるので、子どもの良い面、気になる面を伝えながらコミュニケーションを取り、関係づくりを深めていってほしい。																

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組

- ・隣接する実践校や近隣の保育園と架け橋期の共通理解を行うために、就学前、就学後の連絡会・保育、授業参観・幼小中合同研修・作品展見学等を通して互いの教育への理解を深める。
- ・「就学支援シート」の活用、「個別の指導計画」の作成・引き継ぎ
- ・“夢中になって遊び込む”経験を積み重ね、自ら充実感や達成感を味わう子どもを育む教師の援助や環境構成を考える。人間性や「学びに向かう力」を育てる保育を推進、小学校へとつなげる。
- ・『幼保小の架け橋プログラム』に向かい、保育園とともに幼児教育の質を高めていく。
- ・「親子で絵本！」のノートを活用しながら、絵本や物語に親しみ、創造する楽しさを味わうなど、言葉や文字、数量に対する感覚の基礎を培う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し
 - ・『幼保小の架け橋プログラム』の接続期を意識した5歳児教育課程の検討
 - ・保育園、小学校との接続、施設利用状況、公開保育の事前事後研修の実施
 - ・「親子で絵本！」の活用状況
 - ・アンケート項目
- ① 「近隣の保育園、小学校、中学校とのつながりを大切にしている」
- ② 「親子で絵本を読む時間を大切にしている」

中間評価

各種指標結果

- ① 「近隣の保育園、小学校、中学校とのつながりを大切にしている」 A 69 % ・ B 31 %
- ② 「親子で絵本を読む時間を大切にしている」 A 56 % ・ B 35 %

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・今年度は小学校が架け橋プログラムの実践校となり、年間で見通しをもって架け橋期の取組をしようと、前向きに進んでいる。幼稚園のウェルカムデー (参観)、子どもの苗屋さんなど、小学校の教職員、中学生、地域の方が足を運んでいただく機会が持てた。1学期に1年生の音楽の授業で交流をしたり、小学校の教員と触れ合ったりする機会があったことで、隣接している小学校への親しみを子どもたちは十分にもっている。10月には保育園を含めた交流が実現したが、事前事後の研修などに課題を残している。
- ・交流をした後のエピソードの作成をし、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直しが必要である。
- ・小学校との交流や施設利用状況 →ウェルカムデー (参観) の実施、校庭やプールの借用、運動会参観・1年生や地域保育園との交流、事後研修の実施などより深めていく。
- ・「親子で絵本！」の活用状況 →目指せ100冊の達成状況 (個人差がある) では、幼児期の親子で絵本を読む時間を持つことが少なくなっている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学びに向かう力が幼児期から育ち、小学校教育へとつながることを意識しエピソードや10の姿をもとに、小学校と共に研修を深めていく。
- ・地域の幼児教育施設との交流を深め、幼児教育の質を共に向上していけるように努力が必要である。
- ・親子で絵本を読む時間が少ないことを危惧している。親子で絵本に親しむことは、心を豊かにするだけでなく、想像力や感性を培い、小学校以降の読む・聞く・理解する・書く力につながっていくことなど、機会を設けて伝えていく必要がある。子どもが自分で読むだけでなく、お家の人に読んでもらうことに幼児は喜びがあり、心が育つことを繰り返し伝えていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・連携のエピソード検討
 - ・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討
 - ・『親子で絵本』の活用度
 - ・教職員同士の合同研修会の実施
 - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園は保育園・小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」

	②「親子で絵本を読む時間を大切にしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 - 絵本の読み聞かせなど協力していきたい。 - 小学校が架け橋プログラムの実践校になったので、幼保小の連携を進めていくことになっている。コロナ禍で途切れていたことを見直していきたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 - 連携のエピソード検討 ・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討 ・『親子で絵本』の活用度 ・教職員同士の合同研修会の実施 - アンケート項目
	①「幼稚園は保育園・小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」 ②「親子で絵本を読む時間を大切にしている」 A 66 % ・ B 32 %
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 - 幼小接続は、直接教員同士が話し合ったり、園児と児童が関わったりすることができたことが大きな成果である。また、音楽の授業を見学したり、1年生の運動会の種目を共に経験させてもらったりしたことで、1年生になることへのハードルが低くなった子どもがいる。『もうすぐ2年生』の取組では、1年生になることへの不安や期待を聞いてもらい、それに応じてくれる1年生との出会いができ、隣接し、自分たちが通う小学校へと親しみをもち、思いをつなぐことはできた。 - 幼稚園の保育の様子を『ウェルカムデー』として小学校の先生に参観してもらうことはできたが、事後の研修などはできていないので、発達を促すために必要な幼児期の経験が小学校教育へとつながっていくことを、積極的に伝えていきたい。 - 幼保小の架け橋プログラムの研修を多く受け、教職員の接続への意識は高まっている。 - 今後も架け橋プログラムについては、思いを共有していきたいと考えている。 - Youtubeなどの影響か、親子で絵本に親しむ機会が減っているが、子どもが自分で読むだけでなく、お家の人に読んでもらうことに幼児は喜びがあり、心が育つことを繰り返し伝えていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 幼稚園の保育を小学校側にも見てもらうことに関しては、定着しつつある。遊びの中の学びに気づくのが難しいと聞くが、子どもの育ちを互いの校種の視点から見つけるなど、架け橋プログラムに向けてできることを工夫し、提案し、共有し、実践できるようにしていきたい。教職員同士のつながりがスムーズになってきた。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 伏見板橋幼稚園を主に、地域の保育園とも幼保小の架け橋プログラム実践校として小学校は取り組んでいる。研修を進める中で幼児期の育ちが小学校へ入ったときに意見を出せるなどの力につながっていることを感じる。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組 - 預かり保育指導計画の実践、見直しをし、預かり保育における遊びの多様性を図る。 - 園生活が充実し、無理なく過ごせるように、興味ある遊びを実現できる環境づくりや支援をする。 - 特に早朝預かり保育では、温かい声かけを心がけ、預かり保育が拠り所となるように保護者との連携を深める。 - 子どもにとって安心できる場となるように、担任や教職員が緊密な連携を取る。
(取組結果を検証する) 各種指標 預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち(異年齢のかかわりなど)

- ・アンケート項目から
- ① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」

中間評価

各種指標結果	
① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」 A 80% ・ B 20%	
自己評価	分析（成果と課題） ・就労する保護者の増加とともに、預かり保育の参加人数は増えている。その中で安心してありのままの思いを出し、異年齢での子どもとの関わりも見られる。しかし、一方で年齢が低いほど預かり保育を利用する傾向にあり、十分な支援がしにくい場合もある。心の安定を考えると、家庭で落ち着いて過ごすことも幼児期は大切であることを切に感じる。
	分析（成果と課題） ・預かり保育（早朝を含む）をすることによって、保護者の就労やゆとりの時間への意識が高まり、働きながらも幼稚園に在園できることが定着しつつある。しかし、保育者は家庭的な温かい関わりで、子どもの思いに寄り添いたいと努力しているが、個々の発達の違いもあり、課題を抱えている。今後も園全体でサポートする必要がある。 ・ゆったりと自分の好きな遊びができる時間なので、保育中には見られなかった集中力や発達の伸びが見られることもある。担任と預かり保育担当者との連携により、保育と預かり保育が連動していくことの大切さを感じる。 ・新しい遊具や遊び方、内容を見直し、家庭的な雰囲気の中でも変化をつけて子どもにとって新鮮で楽しい時間になるように工夫する。 ・担当の教員と担任、保護者が連携を取りながら、子どもの思いに寄り添い、子どもが安心して過ごせる場づくりをしていく。 ・預かり保育に参加した家庭への伝達事項が抜けていかないように意識していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」
	学校関係者による意見・支援策 ・幼稚園でこそこできる預かり保育の良さを知ってもらい、地域に浸透していったほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」 A 51% ・ B 32%	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・新2号認定の子どもが園児数の約半分と増えた。早朝預かり保育の利用者は少ないが、いつでも預かってもらえる安心感は定着し、特に年少児の利用者が増えてきている。ようやく伏見板橋幼稚園の預かり保育について認知度が上がってきた。子育て支援の一環として、子育てをしている方にとって居心地の良い幼稚園になるように今後も努力していきたい。また、年少児はどうしても手がかかるが、人員配置が難しいこともあるので、預かり担当に負担がかかることがないように考えていきたい。きめ細かな関わりの点では課題も見られるので、来年度は人員配置を考えていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・預かり保育の内容の見直し（イベント、環境構成など）を行い、核となる通常保育とつながるような内容を考えていく。 ・他学年の交流の場となり、年長児が年下を見て、学年の枠を越えて関わる機会となっている。

	・より預けやすい取組となるように、教職員で幼稚園の役割について理解し、協力していく。 ・教職員の時間外勤務の超過を減らすなど、事務の効率化を進めていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 小規模保育からの入園もあると聞いている。地域も何か協力できないかと思っている。公立幼稚園としても、協力して欲しい。

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組	
・未就園児ぶちたんぽぽ組（２歳児親子）を毎週（月）に増やし、引き続き乳児から幼児への発達に応じた遊びや場を提供し、人への安心感や信頼感を構築する。 ・保護者同士が子育ての楽しさを共有したり、乳幼児期の発達を知る機会にしたりする ・園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する ・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。 ・ほっこり子育て広場の取組として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。 ・社会福祉協議会「福ちゃん組」における連携、及び地域子育てステーション事業における連携をする。 ・地域の幼児教育の場として、幼児期に育てたい力について発信できるようにする	
（取組結果を検証する）各種指標	
・子育て支援の取組（こっこ組、ぶちたんぽぽ組）の参加人数 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流	

中間評価

各種指標結果	
・子育て支援の取組（こっこ組、ぶちたんぽぽ組）の参加人数 ⇒ 51人 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ⇒それぞれの子育て観を共有し合う。 ・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流	
自己評価	分析（成果と課題）
	・コロナ禍の後、子育て支援の取組の参加人数（登録）は、減少傾向にある。 ・今年度は、おひさまタイム（子育て語り合い）を毎月1回行うことができ、在園児保護者同士が話す機会も増え、学年を越えた保護者のつながりが持てるようになりつつある。特に、年少組は初めて幼稚園に入園してきた保護者が多く、不安を解消する機会となる。 ・未就園児保護者が教育相談を利用しながら、在園児の遊びや生活の様子を垣間見て、幼児の発達を知ったり、教職員の雰囲気を感じ取ったりすることができ、利用している親子にとっては、ホッとできる場になっている。また、ぶちたんぽぽ組は2歳児親子の取組であるが、同じ学年の親子が集うので、親子共に知り合いになり、温かい雰囲気になってくる良さがある。 ・少しずつではあるが、乳児も増えてきて成長を見守ることが楽しみである。また、在園児も愛らしい乳児の姿から、親しみ、自分の成長を感じ、小さい子どもを思いやる気持ちで関わっている。
分析を踏まえた取組の改善	
・ぶちたんぽぽ組（2～3歳児）の取組が子ども同士だけでなく、互いの保護者と触れ合い、つながりを持つ良い機会になることを外部へとアピールする必要がある。また、来年度に向けて、日数や内容などを検討し、子育て世代が心温まり、子育てが楽しいと思える場にしていく。また、在園児との触れ合いの場を増やし、園児の一員として全教職員で関わっていく。 ・小規模保育事業の子どもたちとのふれ合いを心がけ、今後も地域の幼児教育施設が地域の子ど	

	もを育てる幼児教育の専門家として誇りをもてるように声をかけていきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・子育て支援の取組（こっこ組、ぶちたんぽぽ組）の参加人数 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・乳児期から保育園に入る子どもが増えている。子育て支援の取組をうまく生かしながら、地域の保育園とうまく共存してほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・子育て支援の取組（こっこ組、ぶちたんぽぽ組）の参加人数 ⇒ 70 組 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ⇒ わが子の良い面、気になる面、子育てで大事にしていることなど話し合う。他者の子育てを聞くことで視野を広げる。 ・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流 ⇒ 感染症の心配も減ってきたので、在園児の行事に未就園児が参加できるようにするなどした。また、小規模保育事業との関わりから来年度の入園者を迎えることができた。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・未就園児こっこ組（0～4 歳児親子）とぶちたんぽぽ組（2 歳児親子）として、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを感じ、仲間をつくる場とした。今年度も計画通り実施することができた。なかなかぶちたんぽぽ組の参加者が増えず残念ではあったが、入園希望につながることもあった。これからもより良い未就園児の取組を考えていきたい。母子を離さないことが、将来自立へと向かう近道であることを実感しているが、世の中のニーズにも対応できるように、新しい取組を始める予定である。 分析を踏まえた取組の改善 ・ぶちたんぽぽ組（2 歳児親子）に関しては、月 4 回の取組であったが、来年度からは週 2 回の実施にしたいと考えている。子どもたちの成長に合わせて、保護者支援ができるようにより充実することを前向きに考えていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 働く保護者が増えてきているが、乳幼児の子育てができる時期はあっという間に過ぎていくので、未就園児のクラスで仲間をつくり、楽しんでほしい。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・「金札宮こどもみこし」や「板橋祭」の参加 ・豆ごはんやカレーパーティーの買い物体験（年長児） ・花の苗屋さんの取組 ・女性会によるお茶会体験や、地域のお年寄りとの触れ合い交流（年長児） ・幼中連携における中学生との交流（中 3 生作成の手作り絵本のやりとり） ・学校運営協議会を中心とし、幼児教育への理解、相談、協力を得られるようにしていく。

(取組結果を検証する) 各種指標 ・交流の回数や内容 ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 ・アンケート項目 ① 「地域とのかかわりを大切にしている」 (後期)「子どもは地域行事に喜んで参加している」	
---	--

中間評価

各種指標結果 A 69 % ・ B 31 % ② 「地域とのかかわりを大切にしている」	
自己評価	分析 (成果と課題) ・豆ごはんやカレーづくりの材料を年長児が地域に出て買い物をする、図書館に絵を展示する、年長児が育てた植物を花の苗屋さんの実施で地域の方が足を運んでもらってくださる、育った植物の生長を伝えてくださる、3歳児が地域の公園に出かけるなど、小さなことをコツコツと積み上げていくことができた。また、春の神輿体験や夏の祭りにも参加でき、親子で心躍る体験をすることができた。今後も新しい取組を考えていきたい。地域の子どもは地域で育てるという意識が根付いているので、人とつながる大切さを伝え、これからも保育に活かしていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・地域の子どもが減少するという事は、地域の活性化にも影響してくる。歴史ある幼稚園を残していきたい気持ち強いが、変えていくべきこと、残していくべきことを見極め、地域と共に歩んでいきたい。 ・今年度は、さまざまな地域の行事が復活し、また、運動会にも地域の方々をお招きすることができたので、理事会の中で具体的に話を出していただくことができた。これからも、幼稚園の取組や子どもの姿を知って頂く機会を設ける。 ・預かり保育の時間を利用して、学校運営協議会の方に絵本の読み聞かせや手遊びを行っていただき、直接子どもたちとのかかわる機会や保育参観などに来ていただく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ① 「子どもは地域行事 (金札宮神輿参加・板橋祭・等) に喜んで参加している。
	学校関係者による意見・支援策 ・コロナが5類になり、地域の行事も以前と同じようにはいかないが、行うことができています。若い世代が積極的に運営に参加したくなるような地域の取組になってほしいと期待しています。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果 「子どもは地域行事 (金札宮神輿参加・板橋祭・等) に喜んで参加している。	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・防災訓練参加はなかったが、女性会の方によるお茶体験や社会福祉協議会の方による地域交流会、学校運営協議会の理事の方々に絵本の読み聞かせに来ていただくなど、年長児が関わる取組は行った。地域の全ての方に関わり、子どもの成長を感じてもらう機会をもつことは難しかったが、保護者からも概ね理解を得られたと考える。
	分析を踏まえた取組の改善 ・これからも地域の子どもとして、地域の方々と触れ合える機会をつくっていきたい。 ・学校運営協議会の方々に、幼稚園の保育の様子を見ていただき、園の取組や子どもの育ちに触れ、もっと育ちを感じていただきたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域も世代が代わり、変化してきている。幼稚園の保護者にも地域の良さや取組を知ってもらいたい。
---------	--

（６）教職員の働き方改革について

重点目標	
○ウェルビーイングを目指し、「働き方改革」を進め、より一層の保育の質向上を図る。	
具体的な取組	
・毎週水曜日ノー残業デーとする。・職員会議を週２日にし、常に報告、連絡、相談を大事にする。 ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の１８時以降の電話対応は控える。 ・教職員同士のコミュニケーションを大事にし、互いの思いを共有し、支え合えるようにする。 ・早朝預かり保育実施により、時間外勤務が増えることがないように全教職員が意識する。 ・働き方改革に関する話し合いや研修を行う。 ・園内ＯＪＴを通じて、若手教員を支援する体制を整える。	
（取組結果を検証する）各種指標	
① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 ② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 ③ 「対話を大切にした若手教員に対する園内研修の実施など」	

中間評価

各種指標結果	
① の指標に関して、出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識し、管理職の声かけをしている。 ② の指標に関して、日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている。 ③ 「対話を大切にした若手教員に対する園内研修の実施など」日常の中で意識して行われている。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・コロナ禍があったことで、行事内容やもち方の見直し、アプリ導入により事務の効率化を図ることができた。校務支援員や学校支援ボランティア、総合育成支援員の配置で、教職員の業務負担は軽減されている。常に教職員同士が声を掛け合い、互いをサポートする体制が出来ている。 ・早朝預かり保育を本格実施するようになったが、時間外勤務を控えようとする意識がゆるくなっているため、もう一度教職員に段取り良く業務を進めようとする意識をもてるように声をかけていく。 ・水曜日のノー残業デーは、実行できず、課題となっている。 ・若手教員との対話はスムーズと思われる。若手が活躍できる業務もあり、全教職員互いに得意分野で支え合おうという意識が今年度もできている。
	分析を踏まえた取組の改善
	・引き続き、行事内容やもち方の見直しを図る。 ・検討事項の精選や事前事後伝達、時間を決めるなどし、会議時間の短縮と効率化を図る。 ・担任業務の繁忙を校務支援員に協力してもらうことで、分散化することができるよう今後もしていく。しかし、担任としての必要な業務は責任を持っていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」

	「教職員の年休取得状況」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 心身ともに健全に過ごし、子どもたちのために前向きに業務を進めてほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 - 出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している。 - 日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている。 「教職員の年休取得状況」必要な年休は取得することができている。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 - 毎月の出退勤システムの記録を見ることで、時間外勤務の時間数を意識して勤務するようになりつつある。 - コロナ前の保育のあり方を考え、一人一人が働き方を見直し、全教職員で支え合い、乗り越えていくことができている。 - 全教職員が必要と考える年休を取得することができた。 分析を踏まえた取組の改善 - 教職員の勤務時間についても、常に意識していく必要がある。長く続け、全教職員でウェルビーイングをめざし、心身共に健康で元気に楽しく乗り越えていくことを考えていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 いろいろな対応に大変だとは思う。何かあった時には、第三者的な立場の人（運営協議会のメンバー等）が間に入り、話を進めていくことが大事だと思う。